



日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会 「コミュニティ活動を中心とした支え合いのまち ひたち」を提言

コミュニティの少子高齢社会が進行し、自治会、町内会の解散や未組織化などから、これまでの地縁組織での住民のつながりが希薄になっています。一方

で地域福祉活動や防災活動など地域課題は多様化しており、持続可能なコミュニティ活動や組織、市と協働のまちづくりの在り方を検討し、提言します。

新たな時代のコミュニティを検討 ふさわしい組織・活動・意識の醸成

昨年1月29日、22名の委員で構成してスタートした「日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会」は、2月の第2回委員会の後、新型コロナウイルス感染症拡大で中断を余儀なくされました。7月に再開し、新たなスケジュールが示され、今年の3月に提言書提出に向け検討が続けられています。

これまで、市民、コミュニティ活動実践者、大学生・高校生へのアンケートや、コミュニティ推進協議会会長会議で意見交換、庁内関係課所長会議、若手市職員ワーキングチームによる検討会等が実

施され、昨年11月に市長に中間報告を行いました。

日立市のコミュニティは、昭和46年に日立市民運動実践協議会が発足、平成元年に日立市コミュニティ推進協議会に改称、概ね小



グループワーク

学校区をエリアに地域課題解決等の活動が続けられてきました。

平成21年12月に「行政とコミュニティ活動のあり方検討委員会」が設置され、町内会等への未加入、解散、担い手の高齢化などの状況の中で、持続可能なコミュ

ニティ自治の構築の実現に向けて提言を行いました。

今回の在り方検討委員会では、共助の再構築によって10年先、20年先も持続可能なコミュニティを目指すため、①新たな時代にふさわしいコミュニティ組織（市民に頼りにされるコミュニティ組織へ）、②市民が求めるコミュニティ活動（誰もが活躍できるコミュニティ活動へ）、③市民意識の醸成（向こう三軒両隣の復活へ）などをテーマに検討を進めてきました。

活動拠点である交流センターを核に、市やNPOなどの各種団体と協働しながら、「コミュニティ活動を中心とした支え合いのまち」の実現と、新たな時代にふさわしいコミュニティ組織について、3月下旬に市長へ提言します。

コミュニティ推進協議会の動向

会長 石川 諒一
2期4年(H29～R2)、23単会の会長はじめ各コミュニティ会員の皆様にはご支援ご協力いただき、特に令和元年度の茨城国体では、「まちを花で飾ろう事業」「おふるまい」など、コミュニティの総力を挙げることができました。

長年の課題であった「市報の全戸配布」「防犯灯の電気料金の市負担」は実現の方向です。また、5年間の検討を経て「学校再編計画提言書」を教育長に提出しました。

コミュニティ活動の参加者が年々減少し、コミュニティの存在意義と継続が問われており、この大きな課題解決に向けて、第2次「在り方検討委員会」で検討しています。

時代のニーズに応えるコミュニティ 皆さんと一緒に、住んでいてよかったと思えるまちづくり！

地区・学区	会長	交流センターTel
十王	川井 健一	39-2411
豊浦	大場 進一	43-5755
日高	志賀 勝弘	42-4050
田尻	大森 健一	42-1552
滑川	遠藤 進	22-1654
宮田	岩間 廣道	27-6835
中里	石川 諒一	70-8005
仲町	福地 稔昌	21-5564
中小路	吉岡 保夫	22-6483
助川	秋山 竹彦	23-0955
会瀬	須田 育慎	25-1577
成沢	西 英信	35-5587

地区・学区	会長	交流センターTel
油繩子	白土 敏夫	38-7531
諏訪	持田 幸雄	33-3841
大久保	岡部 光雄	34-0535
河原子	鈴木 東男	33-3746
塙山	西村ミチ江	34-5404
大沼	神谷九二男	35-8329
金沢	泉 聡二	36-3985
水木	森山 和雄	52-3225
大みか	小松 信保	53-5211
久慈	石川 善憲	52-0165
坂下	大塚 雅夫	52-3155

※お問合せ、ご相談は交流センターへ

新型コロナウイルス感染症対策 交流センターの様々な取組

市内23の交流センターでは、市民の皆さんが安心して施設を利用できるよう、より快適な環境づくりに努めています。

新型コロナウイルス感染症対策についても、施設ごとに現状の見直しや利用者の意見等を聞きながら、工夫を凝らして様々な取組を行っています。

換気：網戸やサーキュレーター設置

新型コロナウイルス感染のリスク要因の一つである「換気の悪い密閉空間」を改善する必要があります。

窓が少なく風通しが悪い空間に、網戸やサーキュレーターを設置し



交流センターに設置したのぼり旗

て、換気しやすい環境づくりを行いました。

手洗い：水回りの修繕

風邪やインフルエンザなどを含む感染症の多くは、「手」を介して体内に侵入することが多いと言われています。手に付着するウイルスを防ぐことは難しく、様々な感染症から身を守るためには、手からのウイルスを遮断する「手洗い」が重要です。

蛇口やハンドソープをセンサー式にするなど、水回りを修繕して清潔で、より手洗いがしやすくなるように環境づくりを行いました。



国尻交流センターの横断幕

注意喚起：横断幕やのぼり旗設置

感染症対策は全員が行ってこそ効果が発揮されます。コロナ禍を乗り越えるために地域全体で協力して対策を行うことが重要です。

のぼり旗や横断幕を各交流センターなどに設置し、感染予防の啓発をしています。コミュニティ主催の行事などの際にも活用していく予定です。

このほかにも、各交流センターでは、消毒やマスク着用の徹底はもちろん、非接触型体温計やアクリル板の設置など、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しています。

詳しい利用方法などについては、各交流センターまでお問い合わせください。

皆さんも一緒に対策を行い、力を合わせて乗り越えましょう！



仲町交流センターの非接触型体温計

LED防犯灯 10月から日立市へ移管予定 電気料は市、管理や新規設置要望は地域

日立市は昨年12月に、コミュニティを北部、中部、南部の3ブロックに分けて、防犯灯について意見交換会を実施しました。

これまで自治会、町内会が防犯灯を設置して電気料を負担してきましたが、平成23年度に「行政とコミュニティ活動のあり方検討委員会」から、「町内会等の未加入世帯が増加し、町内会等での電気料の負担が増えている。したがって、電気料は市で負担することを検討し、維持管理のための作業は地域で助け合う仕組みをつくり、役割分担をして、電気料や管理に関する地域の負担軽減を求める。」との提言がありました。

この提言を踏まえ、日立市は平

成24年度から、防犯灯のLED化を進めるとともに、防犯灯の在り方を検討してきており、町内会等が管理している防犯灯の在り方の方針案をまとめ、それをもとにコミュニティの代表等との意見交換となったものです。

《在り方の方針》

①町内会等が所有するLED化した防犯灯(LED防犯灯)について、市が移管を受け、所有するとともに電気料を支払う。

②町内会等及びコミュニティは、LED防犯灯が故障した際の市への連絡、新規設置の要望及び照明を遮る樹木の剪定等の取りまとめを行う。

③市と地域の役割分担によりL

ED防犯灯の管理体制を整え、安全、安心なまちづくりを推進する。

これまで日立市は町内会や自治会等の維持管理費の負担軽減と、地球温暖化防止の観点から、平成30年度から3年間を目途に、市内すべての防犯灯をLED防犯灯に交換できるように支援をしてきました。

今後の進め方では、今年5月頃から9月まで、町内会等からLED防犯灯の日立市への移管手続きが行われ、10月からは新しい管理体制で運営され、行政と地域の協働の仕組みがスタートします。

移管基準や詳しい手続き等については、4月20日号市報に掲載されますのでご確認ください。

コロナ禍の災害を想定：テーマを明確にした防災訓練

日立市は昨年9月、避難所での新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた訓練を行いました。

台風が24時間後に日立市を通過するという予報により避難勧告を発令し、小中学校39か所に避難所を設置したとの想定です。

学区コミュニティの防災訓練もコロナ禍のため、一部規模を縮小し、感染症対策として整備した資機材の確認や災害時の初動体制等を意識した訓練となりました。

塙山学区

昨年9月に塙山小体育館で実施された、日立市のコロナ感染症への対応指針に沿った避難所運営訓練を基に、市担当者等と課題や対応について協議してきました。

感染症対策を意識した受付から避難所内の誘導など、塙山独自の初動体制を検討、3月には実践と検証を行います。

10月17日の学区防災士による全児童対象「防災教室」では、防災の基礎と大切さを学びました。

中小路学区

11月28日、日立市民会館会議室で図上訓練を実施。①ハザードマップ、防災マップで現状確認、②避難時持ち出し品等の確認を行い、家庭内で緊急一時避難場所を決めておく重要性を認識しました。

また、ブレインストーミングで、



図上訓練

①受付・本部②避難・誘導③食料・物資④救出・救助⑤健康管理について討議しました。

日高学区

10月17日、交流センターに本部役員87名が徒歩で集合。感染予防対策をした支部報告受付所を設置、避難行動要支援者の支援物資を袋詰め、その後、42名の福祉協力員が支援者の安否確認訪

問を行いました。

同時に日高小体育館ではコロナ対応避難所の設営、行政との協力体制づくり、トランシーバーでの通信訓練などが実施されました。

宮田学区

10月10日、交流センターでの「防災ワークショップ」で、気象予報士から与えられた情報をもとに、自分と家族も助かるタイミングを見つけて、安全な場所まで避難する方法を学びました。

会瀬学区

11月7日、会瀬小体育館で4年生の防災授業が行われ、訓練を体験しました。児童の感想文には、「担架はパイプ2本と毛布で作ります。最初は不安だったけど、思ったより丈夫でした」「いろいろな人が災害にそなえて道具などを用意していて、私も災害に備えておきたい」などがありました。

助川学区

10月15日、助川小学校で避難所開設訓練を実施。新たに導入したパーテーションや段ボールベッドの組立て等を体験しました。

日立市ふれあい戸別収集事業 今年の1月からスタート

日立市は、燃えるごみ等を集積所へ自分で運ぶことができない高齢者や障害のある方の世帯を対象に、市職員が直接、自宅から家庭ごみ等を無償で回収する「日立市ふれあい戸別収集事業」をスタートしました。

令和2年10月、「日立市ふれあい戸別収集事業実施要綱」を告示、1月27日（水）から戸別収集を開始しました。

日立市は利用対象者が増大すると考えており、個人のプライバシーの問題もあるため、福祉関係課や関係団体と連携しながらこの事業を進めるとともに事業周知に努めます。
「利用できる方」

- 1 日立市に住所がある方
- 2 自分で集積所まで運べない方
- 3 次のいずれかに該当する方
 - ◆要介護2以上の認定の方
 - ◆身体障害者2級以上（肢体・視覚）の交付を受けている方
 - ◆療育手帳A以上の交付を受けている方
 - ◆精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている方 等

「利用までの手順」

- 1 事前相談（利用希望者）
 - ①相談受付
 - 環境衛生課リサイクル推進室、介護保険課、障害福祉課、高齢福祉課、社会福祉課
 - ②用意するもの
 - 支援対象要件が確認できる保険者証や手帳の写し等

- 2 調査及び面談
 - ①生活状況等の調査
 - ②本人・家族等との面談
- 3 申込み
 - 利用申込書を市に提出
- 4 決定
 - 戸別収集利用決定通知書の発行
- 5 収集開始
 - 事前に出し方や収集方法、専用容器の設置等の説明
- ◆収集日時
 - 毎週水曜日の午前中（時間帯は事前決定）
- ◆収集方法
 - ①市指定ごみ処理袋を使用
 - ②市が設置した専用容器から収集
- ◆収集ごみ
 - 燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ（小）、有害ごみ、再生資源



地域交通利用にスマホの勉強会

金沢学区コミュニティ推進会

今やスマートフォンは、コミュニティに集まるほとんどの人が使っていますが、コミュニティ活動で組織的に使われることは少なく、高齢者で持っている人たちもその機能を十分に生かすことができず従来の電話機能として使用しています。

このような中、金沢学区コミュニティ推進会ではHitachi MaaSアプリで、ひたちBRT、デマンドタクシーを利用してもっと自由



スマートフォンのアプリ勉強会

に移動できるように、スマホの勉強会を始めています。

講師には日立製作所研究開発グループで地域デザインが専門の峯元長さんを迎え、交流センターに

も配備されているWi-Fiの設定やひたちナビ、いばらきアマビエちゃんのインストールなど月1回の勉強会を行っています。スマホの機種によってはアプリのインストールができない機種や手間がかかるものもあり、使う側の立場に立った勉強会になっています。

今後、デジタル活用支援員の育成や若者とのふれあいの場としてのe-スポーツ、高齢者の見守り支援など、コミュニティ活動でのICT及びデジタル化社会に対応することが目標です。

まずは地域を知ることから！ 市新任職員コミュニティ体験研修

今年度も日立市役所の入所1年目・2年目の職員を対象に「コミュニティ活動体験研修」が実施され、76人の職員が参加しました。

この取組は、平成26年度に、コミュニティについての理解を深めることを目的として始まり、今年度で7回目の取組です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、コミュニテ

ィでも多くの行事やイベントなどが開催できませんでしたが、環境美化や地域福祉活動、ウォークイベントなどに職員が参加し、地域の人たちと積極的な関わりを持つことができました。

体験した職員からは、「活動は



民生委員と福祉マップの更新

とても楽しかった」「地域活動の重要性を感じた」「誰もが当事者意識を持つことが重要だ」など、コミュニティ活動の楽しさや大きさ、課題などが出されました。

また、コロナ禍だからこそ、コミュニティ活動により向き合うことができ、学んだことも多くありました。

市職員として、また、地域住民の一人としてコミュニティについて考える良い機会になりました。

もっと日立が好きになる！ 日立の魅力再発見ウォーク開催

毎年行っている「日立の魅力再発見ウォーク」が、昨年10月18日から11月21日にかけて、規模を縮小して開催されました。

参加者は、各地域の自然と歴史に触れ、普段は気づかない地域の魅力を改めて発見しました。どのコースも見どころがいっぱい、コースによっては参加賞があり、中里学区では名産品のりんごがもらえるなど、最後まで参加者を楽しませる工夫を凝らしました。

また、各コミュニティで検温や



中里学区を再発見

マスク着用など、新型コロナウイルス感染症対策も徹底して行われました。

お住まいの地域に関わらず、どのコースにも参加できますので、来年度開催の際には、たくさんのコースに参加してください。

単会名	タイトル
河原子	太平洋の潮風を浴び、河原子の旧跡を訪ねて
宮田	宮田近隣の自然・文化を訪ねる
油繩子	油繩子の歴史めぐり
田尻	白砂青松の自然と史跡めぐり
中里	再発見の散歩道、中里の自然
助川	幕末に築かれた助川海防城跡と城主山野邊氏の墓所を訪ねる
中小路	日立駅前地区の歴史・史跡をたずねて
久慈	海と山と風と空を感じよう